

## DI委員会トピックス

### レパーサ<sup>®</sup>皮下注 140mg シリンジ

#### 《概要》

2016年1月より、国内初の高コレステロール血症に対する PCSK9 (Proprotein Convertase Subtilisin/Kexin type9)阻害薬レパーサ<sup>®</sup>皮下注が発売となった。レパーサ<sup>®</sup>皮下注は PCSK9 による LDL 受容体の分解を阻害するため、家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症（ただし心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA 還元酵素阻害剤で効果不十分な場合）の治療薬として効果の高さが期待されている。

#### 《DI情報》

薬剤名	レパーサ <sup>®</sup> 皮下注 140mg シリンジ
成分名	エボロクマブ（遺伝子組換え）
効能・効果	家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症 ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA 還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る。
用法・用量	<p><b>1. 家族性高コレステロール血症ヘテロ接合体及び高コレステロール血症</b> 通常、成人にはエボロクマブ（遺伝子組換え）として140mgを2週間に1回又は420mgを4週間に1回皮下投与する。</p> <p><b>2. 家族性コレステロール血症ホモ接合体</b> 通常、成人にはエボロクマブ（遺伝子組換え）として420mgを4週間に1回皮下投与する。効果不十分な場合には420mgを2週間に1回皮下投与できる。なお、LDLアフェレーシスの補助として本剤を使用する場合は、開始用量として420mgを2週間に1回皮下投与することができる。</p> <p><b>&lt;用法・用量に関連する使用上の注意&gt;</b> HMG-CoA還元酵素阻害剤と併用すること。</p>
作用機序	LDL受容体分解促進タンパク質であるPCSK9に高い親和性を示し、PCSK9のLDL受容体への結合を阻害
主な副作用	糖尿病、注射部位反応、肝酵素異常、CK上昇、頸動脈内膜中膜肥厚度増加、筋肉痛
禁忌	本剤の成分に対し過敏性の既往歴のある患者

#### 参考

- レパーサ皮下注 140mg シリンジ 添付文書、インタビューフォーム